

北海道北西部の港におけるオオセグロカモメの人工物上の巣数

長谷部 真

〒078-4116 北海道苫前郡羽幌町 北海道海鳥センター

Number of Slaty-Backed Gull Nests on Artifacts in Fishing Ports, North-Western Hokkaido

Makoto HASEBE

Hokkaido Seabird Center, Haboro-cho, Tomamae-gun, Hokkaido, 078-4116 Japan

Abstract. 125 Slaty-backed Gull *Larus schistisagus* nests were found on artifacts in fishing ports between Teshio and Obira regions, north-western Hokkaido. 74% of the nests were on breakwaters, and the others were on roofs. 91% of the nests on the breakwaters were inaccessible from land. These suggest that the gulls prefer nesting on inaccessible breakwaters with lower predation risk to accessible breakwaters and roofs. 90% of the total nests were found in fishing ports less than 40km away from natural breeding sites on Teuri Island, implying that the Gulls dispersed from Teuri to the adjacent fishing ports.

はじめに

オオセグロカモメ *Larus schistisagus* は、北海道と本州北部の離島や崖の上に巣を作り繁殖するカモメ類である（環境省, オンライン）。北海道では、かつて大黒島（8,200 つがい, 1993 年）、ユルリ島（3,466 羽, 1993 年）、ハボマイモシリ（1,106 つがい, 1991 年）、知床半島（1,709 つがい, 1999 年）、天売島（1,184 つがい, 1996 年）が主要な繁殖地であった（新妻, 1995；近藤, 1992；近藤, 1995；福田, 2005；天売海鳥研究室, 未発表）。近年は大黒島で 2012 年に 88 巣, ユルリ島で 2013 年に 53 巣, 知床半島で 2011 年に 180 羽, 天売島で 2013 年に 267 巣と、繁殖数が大幅に減少している（釧路自然環境事務所, 2011；生物多様性センター, 2013；生物多様性センター, 2014；天売海鳥研究室, 未発表）。

近年、港湾施設の岸壁や建物の屋根の上などの人工物上で繁殖するオオセグロカモメが増加している。例えば知床半島では、1986 年に文吉湾の離岸

堤に 64 巣あったが、2003 年には 144 巣にまで増加し、2002 年に羅臼港の離岸堤で 224 巣となった（大泰司・中川, 1988；福田佳弘, 未発表）。同様に、釧路港では 1990-2014 年に 17 巣から 170 巣（橋本, 1990；矢萩 樹, 私信）、網走港では 2007-2013 年に 237 巣から 493 巣（渡辺義昭, 未発表）、苫前港・羽幌港では 2011-2013 年に 17 巣から 41 巣（長谷部, 2013；長谷部 真, 未発表）、焼尻港では 2010-2013 年に 25 巣から 44 巣（長谷部, 2014）、といずれも巣数の増加が確認された。このほかの地域でも 2009 年に札幌市街地のビルの屋上で 47 巣（小平, 2010）、2010 年に石狩市浜益区雄冬岬のテトラポットで 1 巣（長谷部 真, 未発表）、2012 年に浜中町霧多布港で 257 巣（片岡, 2012）、2013 年に室蘭市イタンキ漁港・追直漁港で 41 巣（先崎理之, 未発表）、2013 年に宗谷岬から雄武までの港で 462 巣（渡辺義昭, 未発表）、が確認されている。しかし、これまで調査が行われたのは北海道全体の一部に過ぎない。本報では、これ

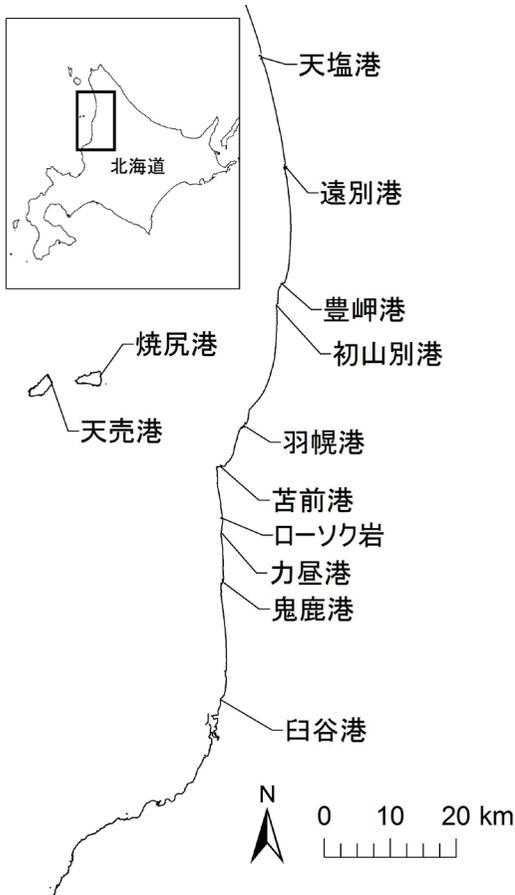


図1. 調査位置。

までほとんど調査が行われていない天塩から小平にかけての人工物上のオオセグロカモメの営巣状況を報告する。

調査方法

北海道北西部の日本海側の海岸には砂浜が広がっているが、一部に海食崖があり、中小の漁港が点在している。オオセグロカモメの繁殖期に当たる2014年6月13日に羽幌港(44°22'N 141°42'E)・苫前港(44°18'N 141°39'E)・力屋港(44°13'N 141°39'E)・鬼鹿港(44°9'N 141°39'E)・臼谷港(44°0'N 141°39'E)、2014年6月14日に初山別港(44°32'N 141°46'E)、2014年6月19日に天売港(44°26'N 141°19'E)・焼尻港(44°26'N 141°24'E)、2014年6月22日に遠別港(44°44'N 141°47'E)・天塩港(44°52'N 141°44'E)、の

表1. 人工物上のオオセグロカモメの巣数

位置	防波堤		屋根	合計
	離岸	陸続き		
天塩港	0	0	0	0
遠別港	0	0	7	7
* 豊岬港	-	0	0	0
初山別港	33	0	0	33
焼尻港	22	7	0	29
天売港	-	0	0	0
羽幌港	-	1	16	17
苫前港	-	0	10	10
力屋港	23	0	0	23
鬼鹿港	-	0	0	0
臼谷港	6	0	0	6
合計	84	8	33	125

—: 該当なし * 黒田弘章 私信

防波堤(岸壁・波止め用のコンクリート・テトラポット)、や建物の屋根の上にある巣を探した(図1)。豊岬港(44°34'N 141°46'E)では調査を行わず、黒田弘章氏から聞き取りを行った。また国道232号の海岸沿いを車で移動中に自然の岩礁等にある巣を探した。

調査結果と考察

11つのうち7つの港の人工物上に合計125個のオオセグロカモメの巣を発見し、力屋港に近い小さな岩礁のロウソク岩で9巣を発見した(図1, 表1)。巣の場所が港によってほぼ防波堤または屋根に分かれ、防波堤が全体の74%を占めた。防波堤のうち91%が陸から離れた離岸堤だったことや、屋根を利用した羽幌港・苫前港には離岸堤がなかったことから、屋根の上よりも防波堤、その中でも陸上の捕食者が近づきにくい離岸堤を好むことが示唆された。他の地域でも、知床半島では離岸堤が建造されてから間もなくオオセグロカモメの巣が確認された(大泰司・中川, 1988; 福田, 2008)、網走港から宗谷岬でも防波堤上の巣の99%が離岸堤にあった(渡辺義昭, 未発表)。

天売島から40km以内の初山別港・焼尻港・羽幌港・苫前港・力屋港で全体の巣の90%を占めた(表1)。1990-2000年代に天売島に1,000巣以上の大規模な繁殖地があったことや(天売海鳥研究室, 未発表)、1996年まで羽幌港に巣がなかったことを考えると(福田佳宏, 私信)、天売島から近いこれらの港の繁殖地に早くから繁殖個体群が分散

してきた可能性がある。

屋根の上などの人工物上で繁殖するカモメ属 *Larus* はイギリスとアイルランドで12万つがいおり、糞による汚れ、鳴き声による騒音、卵やヒナを守るための人への攻撃が社会問題になっている (Rock, 2005)。日本でも人間との軋轢が一部で表面化しており、羅臼町では屋根の巣の撤去が実施された (福田佳宏, 未発表)。また、北海道全体のオオセグロカモメの繁殖状況を把握するためには、自然巣だけでなく増加傾向にある人工物上の繁殖状況の実態解明が不可欠である。このため、速やかに人工物上の巣の全道調査が行われることが理想であるが、まずはこれまで記録がない渡島・後志・十勝地方を中心に調査が行われることが望まれる。

謝辞

情報の提供や原稿に目を通していただいた先崎理之氏、記録や情報を提供していただいた渡辺義昭氏、矢萩 樹氏、黒田弘章氏にお礼申し上げます。

文献

福田佳宏, 2005. 知床半島における海鳥類の繁殖分布モニタリング調査1997-2004年. 知床博物館研究報告, (26): 21-24.

福田佳宏, 2008. 平成20年度知床半島における海鳥の生息状況と観光船による影響に関する調査報告書. 釧路自然環境事務所. 釧路.

長谷部 真, 2013. 北海道北西部におけるオオセグロカモメが繁殖する海岸沿いの屋根の特徴と巣の位置. *Bird Research*, (9): 13-18.

長谷部 真, 2014. 2010-2013年の焼尻島における海鳥の巣数. *山階鳥学誌*, (46): 29-33.

橋本正雄, 1990. 屋上で繁殖したオオセグロカモ

メ. 釧路市立博物館報, (325): 10.

片岡義廣, 2012. 平成24年度霧多布湿原学術研究助成事業: 浜中町におけるオオセグロカモメ及びウミウの営巣数調査. エトピリカ基金. 浜中町. 環境省. 海鳥コロニーデータベース. オンライン. <http://www.sizenken.biodic.go.jp/seabirds/index.php>.

小平大輔, 2010. 札幌都市部に生息するオオセグロカモメの生態. 北海道大学環境科学院修士論文. 北海道大学. 札幌.

近藤憲久, 1992. ハボマイモシリ島におけるコシジロウミツバメ (*Oceanodroma leucorhoa*) の繁殖について. 根室市博物館開設準備室紀要, (6): 1-12.

近藤憲久, 1995. ユルリ・モユルリ島と歯舞・色丹島における海鳥類の生息状況. 根室市博物館開設準備室紀要, (9): 49-59.

釧路自然環境事務所, 2011. 平成23年度知床国立公園ウトロ海域における海鳥調査業務. 釧路自然環境事務所. 釧路.

新妻靖章, 1995. 大黒島のコシジロウミツバメとオオセグロカモメの繁殖ペア数について. 釧路市立博物館紀要, (19): 15-18.

大泰司紀之・中川 元, 1988. 知床の動物. 北海道大学図書刊行会. 札幌.

Rock, P., 2005. Urban gulls: problems and solutions. *British Birds*, (98): 338-355.

生物多様性センター, 2013. 平成24年度モニタリングサイト1000海鳥調査報告書: 5-24. 生物多様性センター. 富士吉田.

生物多様性センター, 2014. 平成25年度モニタリングサイト1000海鳥調査報告書: 5-28. 生物多様性センター. 富士吉田.